

ユネスコスクールの状況・今後の活動について

1. ユネスコスクール申請／加盟承認状況

国内委員会受領期間	2015 年 4 月～10 月	2015 年 11 月～ 2016 年 2 月	2016 年 3 月～9 月
ユネスコ本部への申請 件数	2015 年 10 月 40	2016 年 2 月 46	2016 年 10 月 29

- 2017 年1月現在、計 115 件の申請について、ユネスコ本部のユネスコスクール課で加盟承認手続きが滞っている状況。
- 日本ユネスコ国内委員会／文部科学省としては、同課に対し、状況の改善を強く要請するとともに、各校からの申請はユネスコへ「加盟申請済」である旨を教育委員会に連絡し、日本のユネスコスクールリストに申請済みの各校についても「加盟申請中」として掲載、HP、メーリングリスト、パンフレットを通じて全国で共有することで、加盟承認前であっても各校が国内でユネスコスクールに準じて活動することを推奨。

（背景：ユネスコ本部におけるユネスコスクールに関する検討）

<外部評価におけるユネスコスクール事業に関する指摘>

- 1万校の3割が10か国に集中、不活発なユネスコスクールが存在
 - 地理的バランス／国ごとの上限数を導入すべき
 - メンバーシップに期限・フォローアップを導入すべき
 - 各国で加盟申請に際し基準と事前セクションに義務付けを行うべき

<ユネスコで検討が進められている改善案>

- 加盟承認・フォローアップツールとして OTA(Online Tool for ASPnet)の利用
(OTA はすでに運用開始)
- 加盟申請前に申請校の活動を確認する期間の導入等、各国における事前セクションの導入

2. 我が国において検討すべき事項とその方向

① 加盟申請手続の再整理

<検討のポイント>

- OTA の導入(ユネスコへ学校から直接加盟希望の表明が可能)にともなう整理
- 申請校の活動を確認する手法及び推薦の基準の設定、ASPUnivNet の役割 等

<方向性>

- 学校が主体的に OTA を活用して行う加盟希望の表明と、教育委員会等を通じた国内委員会からの申請支援を組み合わせる実施。
- 原則 1 年間の「チャレンジ期間」を導入し、加盟希望校は、ASPUnivNet の助言を得つつ、ユネスコスクールガイドラインに沿った活動を実施し、活動報告書を日本ユネスコ国内委員会に提出。
- 国内委員会は、報告書により実績を確認のうえ、ユネスコ本部に正式に加盟申請を実施(年 1 回)。

② ユネスコによる加盟承認後の学校における活動の効果的／効率的なフォローアップ

<検討のポイント>

- 国際的なビジビリティの向上、OTA を通じた国内外の交流活動の活性化 等

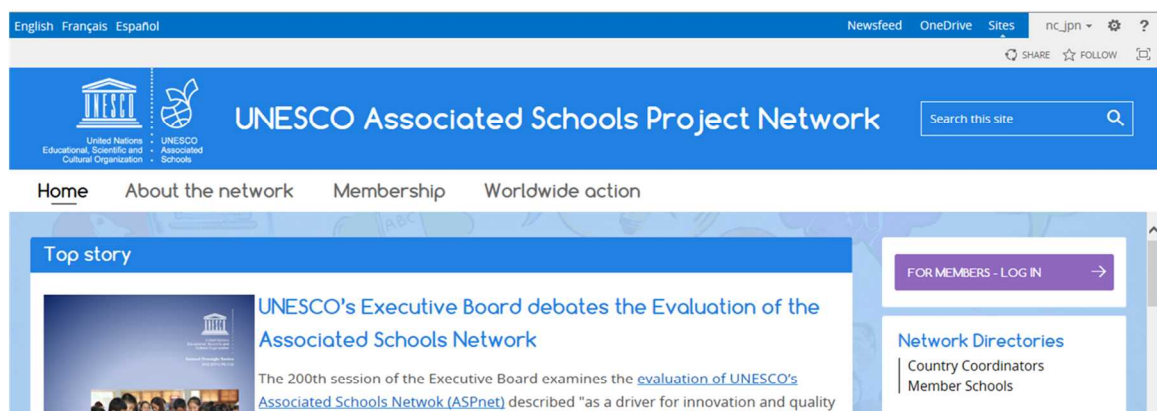
<方向性>

- 日本ユネスコ国内委員会による国際的な広報の推進
- 各学校における OTA を通じた直接の広報の推奨
- 既存の枠組み(地域ユネスコ協会、大学等)による効果的なサポート

(参考)OTA(Online Tool for ASPnet)について

ユネスコ本部においてユネスコスクールのウェブサイトを開設

<https://aspnet.unesco.org/en-us/Pages/Default.aspx>



OTA利用のポイント

- ・ ユネスコ本部が発信する情報の収集が可能
- ・ ユネスコ本部が作成した教材やマテリアルをOTAからダウンロード可能
- ・ 海外のユネスコスクールの活動内容の確認、オンライン上での交流 等

今後のユネスコスクール申請方法(案)

